

○再整備・再配置の方向性

藤沢第二地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設（公民館）の活用を前提とする。	1 東藤沢公民館を活用する案	【メリット】 ・既存施設を活用することができる。 【デメリット】 ・複合施設として整備することを考慮した場合、敷地の拡張が難しい。
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢南小学校を活用する案	【メリット】 ・敷地が広く複合化による機能拡張に対応しやすい。 【デメリット】 ・地区の南西部に位置しており、藤沢東小と比較すると周辺の住宅が少ない地域に存在するため、通学距離が長くなる児童が多くなる。
		2 藤沢東小学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部に近いため、多くの児童が通学しやすい。 ・藤沢第一地区から通学する児童の増加が予想される。 【デメリット】 ・市街化が進んでいるため、敷地の拡張の余地が少ない。
	統合しない場合の想定		【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。
	複合化しない場合の想定		【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 藤沢東と藤沢南学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いため、既存施設を活用することを前提とする。	1 上藤沢中学校を活用する案	【メリット】 ・既存施設を有効活用できる。 【デメリット】 ・地区内になく住宅地と離れていることから、移転について検討する必要がある。
		2 藤沢南小（跡地）を活用する案	【メリット】 ・地区内にはないが、住宅地からの距離が近いとため、多くの生徒が通いやすくなる。 【デメリット】 ・中学校用地としては、多少狭いため、隣接地の取得を検討する必要がある。
保育所	施設が比較的新しく、地区の人口減少が少ないため、当面は、既存施設を活用することを前提とする。	1 藤沢保育所を活用する案	【メリット】 ・既存施設が有効活用できる。 【デメリット】 ・将来的には藤沢第二保育所との統合を検討する必要がある。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

※広域対応施設は地区内に所在しない。